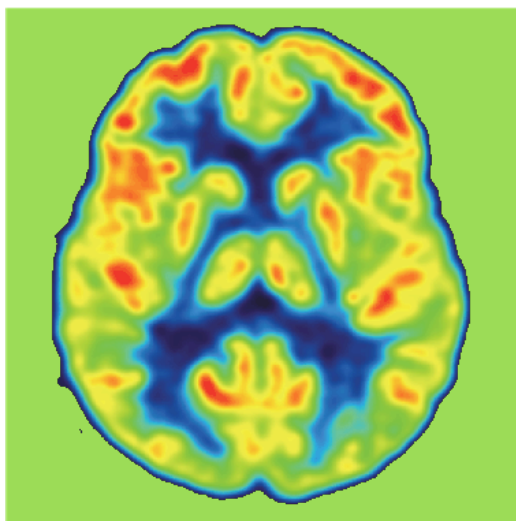




PETはもっと進化し、もっと身近に。

量子科学技術研究開発機構は、中谷医工計測技術振興財団から助成を受け、「未来PET創造研究ユニット」を設立しました。物理学と核医学をカバーする研究拠点を確立し、利用可能なすべての放射線を診断に役立てる独自コンセプトWhole Gamma Imagingへのパラダイムシフトを目指します。革新的医療機器開発は、アイデアが斬新なほど実用化は遠いのですが、実用化を重視するあまり難しい課題を避けてしまつては意味はありません。そこで未来PET創造研究ユニットでは、革新的技術をラボの試作物で終わらずに本気で臨床に届ける、すなわち「Bench to Clinical」を標語に掲げました。シンポジウムでは、未来PET創造研究ユニットキックオフとして、目指すべき未来技術について議論します。



このチラシを折ると

あなたのPETに！（裏面参照）

シンポジスト

山谷 泰賀 QST 未来PET創造研究ユニットリーダー
未来のPET装置を創る！

黒澤 俊介 東北大学 未来科学技術共同研究センター 准教授
シンチレータと未来医療機器創成

羽石 秀昭 千葉大学 フロンティア医工学センター長・教授
千葉大学における医用画像工学の研究と教育およびQSTとの連携

今井 陽一 獨協医科大学 内科学（血液・腫瘍）講座 教授
血液内科学における未来PET-医工連携による新規診断技術創出

試作機器展示 & ポスター発表もあります

参加登録はこちら
Registration here!



「未来PET創造研究ユニット」キックオフ Bench to Clinical シンポジウム 2022年5月29日（日）13:30-17:30 量子科学技術研究開発機構（QST）千葉

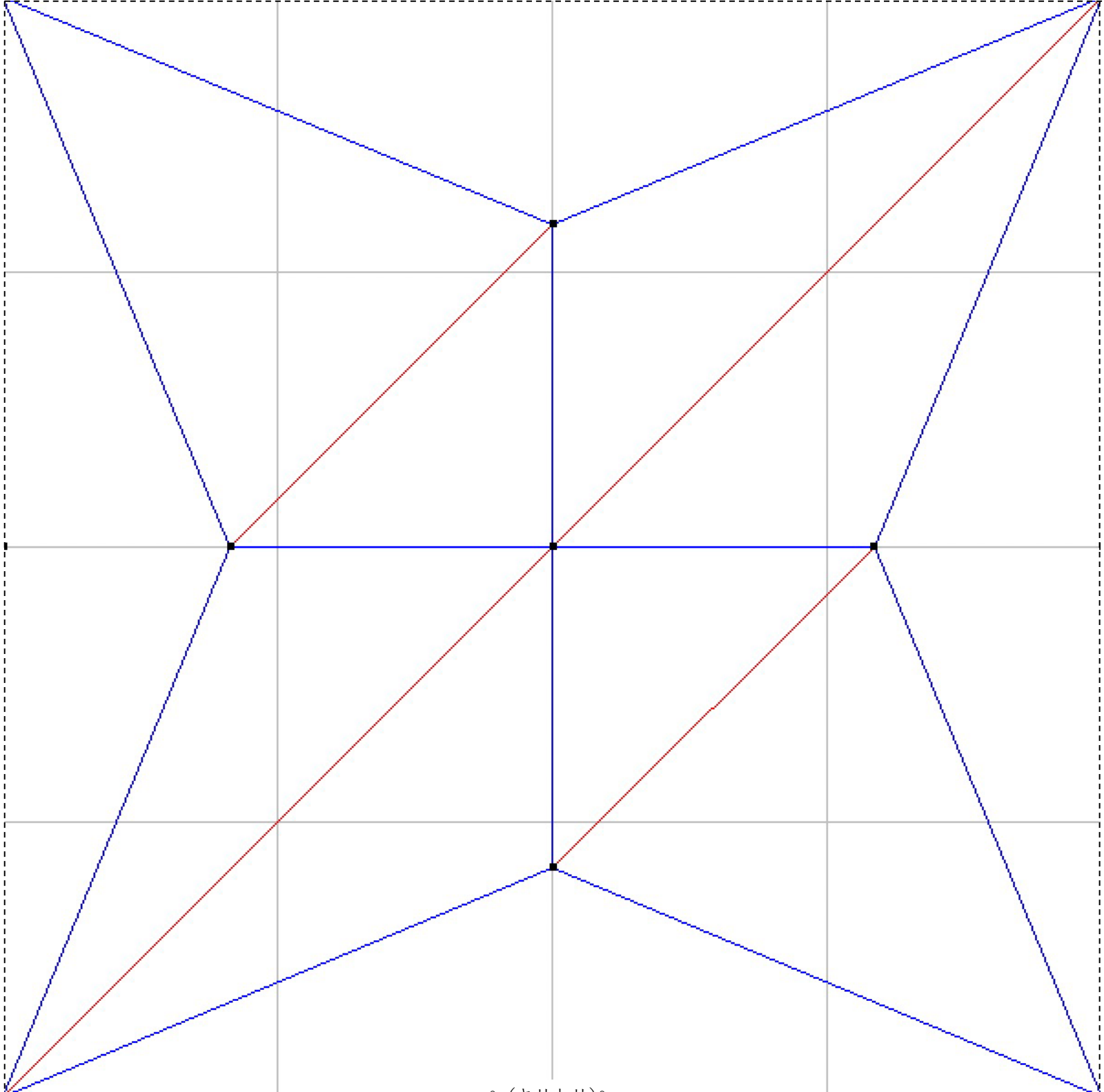
参加無料（要参加登録。一部ハイブリッド開催予定。）

URL <https://www.qst.go.jp/site/qms/event220529.html>

主催 国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門
（問い合わせ：未来PET創造研究ユニット jpet@qst.go.jp）

協賛 公益財団法人 中谷医工計測技術振興財団





※(キリトリ)※

▲ツルの展開図(山折り線、谷折り線に沿って折ると...)

[PETDOGの折り方] Step 1. 「ツルの展開図」からツルの基本形を折る. Step 2. ツルの基本形から折り図1-18に沿って折る.

— 山折り (Mountain)
— 谷折り (Valley)

1 [ツルの展開図の完成形] 2 3 4 5 中央線に向かってかぶせ折り.

6 手前の1枚をかぶせ折り.

7 内側に折る.

8 段折り.

9 下側の両端を中央線に向かって半分に折る.

10 ※QR codeが右側に見えるようにおく和良好的.

11 折り畳む.

12 1枚だけおもてを返す(裏面も同様).

13 9-13までもう片方も同様.

14 耳と前足を結ぶ直線で内側に折る.

15 内側を開く.

16 中割り折り.

17 かぶせ折り.

18 顔や足のバランスも整える.

完成!